

## 臨床研究への取り組みを応援！

国立病院機構東京医療センター  
薬剤部長  
大塚知信

雑誌「医療」の編集に携わり約1年が経過した。国立病院機構関東信越グループ医療担当薬事専門職との併任を理由に「編集余滴」の執筆担当を幾度となく先延ばしにしていたが、今回の寄稿にあたり、先ずはご迷惑をお掛けした関係各位へお詫び申し上げたい。

さて、約2ヶ月毎の「医療」編集委員会の場では毎回各研究者の方々の熱意を感じ取りながら編集作業を担当させていただいており、多職種の方々がそれぞれのチーム医療活動等の中で様々なクリニカルクエストに遭遇しているものと推察している。私が所属する関信地区国立病院薬剤師会では、「臨床研究・疫学研究・薬剤業務研究のノウハウを取得して研究計画を立案し、実践につなげよう！」をテーマに、毎年5回シリーズの臨床研究推進研修会を開催しており、これまでに多くの薬剤師がこの研修会に参加し研究成果を挙げている。研修会を担当している同薬剤師会教育研修部のメンバー各位に敬意を表し、その活動の一端を紹介させていただきたい。

臨床研究推進研修会2023の募集要項には、「私たち薬剤師は薬物療法における重要な場面に関わっており、様々な薬剤関連業務を展開しています。今後、更なる質の高い薬物治療のためには、発信されたエビデンスを活用するだけでなく、薬剤師自らが主体的に又は医師と共同で臨床研究を行ったり、カルテ情報を収集・分析して疫学研究を行ったりすることで、薬物療法の評価やエビデンスの構築を通じて情報発信を積み重ねていく姿勢が求められています。また、病棟活動などの薬剤師の業務が薬物療法的確かつ安全な実施に結びついていることを評価する薬剤業務研究も薬剤師の職能をアピールする上で重要です。一方、これらの研究はヒトを対象とする医学研究の範疇となることが多く、被験者への倫理的

配慮および科学的妥当性、データの信頼性を保証するものでなければなりません。本研修会では、倫理性および科学性を確保した研究を行うための知識の習得、研究計画の立案を通じて薬剤師が臨床研究等のスキルを身につけることができるようになることを目指します。」とあります。薬剤師会内外の講師による「文献検索の方法」、「クリニカルクエストからリサーチクエストへ」、「研究デザインについて」、「倫理：臨床研究を実施するにあたって」、「論文の批判的吟味」、「臨床研究に必要な統計解析の基礎知識」などの講義と、そして毎回演習やグループディスカッションが行われ、最終の第5回目は一般会員も研修生の研修成果や研究計画発表等を聴講することが可能となっており、次に繋げる工夫もされています。私も第5回目の発表を楽しみに毎年参加しており、笑い話ですが、運営を担当する教育研修部のとあるメンバーから、「毎年ここの席に座っていますね。」と言われたこともありました。

また、自施設である東京医療センター薬剤部でもリサーチマインドを持つ薬剤師の育成へ向けて、2021年度から個別指導型の「臨床研究塾」を設立し、臨床経験の浅い薬剤師でも臨床研究に取り組みやすいよう支援を行っています。座学での講義に加え、薬剤師によるチューター制を導入したことで学会発表や臨床研究などの経験を重ねた中堅薬剤師が塾生（受講者）を論文投稿までフォローする形としており、2021年度、2022年度と「臨床研究塾」設立による臨床研究への推進効果が現れてきています。

日常業務と研究の両立は簡単なことではありませんが、日々の臨床業務、薬剤業務の中で遭遇するクリニカルクエスト等を放置せずに、自らキチンと調査していくことが大切ではないかと考えています。